

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	堤 健 人
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目			
技術科における資質・能力の構造に基づく指導に関する研究			
論文審査担当者			
主 査	教 授	長 松	正 康
審査委員	教 授	山 崎	敬 人
審査委員	教 授	磯 崎	哲 夫
審査委員	准教授	谷 田	親 彦
〔論文審査の要旨〕			
<p>本研究は、中学校技術・家庭科技術分野（以下、技術科）で育成を目指す資質・能力を体系的・系統的に指導するための理論的な基盤について提案し、資質・能力の構造に依拠した学習の枠組みを開発するとともに、技術科授業を実践する指針として題材の指導と評価の計画を明示したものである。</p> <p>本論文の構成は次のとおりである。</p> <p>第1章では、近年における世界的なコンピテンシー・ベースの教育改革を踏まえて、その理念などを整理するとともに、学校教育課程において「知識及び技能」「思考力、表現力、判断力等」「学びに向かう力、人間性等」と整理された資質・能力が、日本固有のコンピテンシー概念の実体であることを指摘している。また、技術科の資質・能力に関わる文献調査の結果、技術科の学習による多様な力の育成が主張される一方で、整理された三つの資質・能力の観点からの検討・分析は十分ではないことを明らかにしている。さらに、技術科の授業においては、題材を通して体系的・系統的に資質・能力を育成することに課題があると指摘している。これらのことから、技術科で育成を目指す資質・能力を体系的・系統的に指導するための理論的な基盤を提案することで実践への視座を明確化し、それに基づく学習の枠組みや題材の指導計画などを示すことの必要性を指摘している。</p> <p>第2章では、OECDのコンピテンシーに関する文献を調査することを通して、技術科における資質・能力との同異を分析し、資質・能力の構造化を行っている。その結果、文脈に依存して資質・能力を総合的に機能させる共通点や、社会や世界での活用が目指されている共通点などを指摘している。一方で、資質・能力とコンピテンシーでは教科特有の見方・考え方との関連の仕方に相違点があることを見出している。また、日本における学力論争の系譜を概括することを通して時代の変化に伴う学力の内実を把握した結果、資質・能力の育成には主体的側面と客体的側面を二項対立的に捉えるのではなく、文脈に応じてそれらを一体的に育成することが求められることを指摘している。さらに、これまで提案されてきた技術科の学力構造について分析した結果、知識や技能の獲得を起点として思考力、判断力、表現力等を働かせる学習活動を通して、態度等の非認知的な能力の形成を目</p>			

指していることなどを指摘している。以上のことから、「技術科の学力を構成する要素と資質・能力の三つの柱との関係」や「技術科で育成する資質・能力と学習における文脈との関係」などを含有した「技術科における資質・能力の構造とそれに基づく学習の方針」を図示している。

第3章では、提案した資質・能力の構造に基づいて技術科授業を計画・実践する際の要点や課題について検討している。また、資質・能力の構造に基づいた指導計画の概要を検討して、学習の枠組みとして「技術との関わりの形成」「個別の知識の獲得」「生きて働く知識の習得」「知識の活用に向けた関係性の把握」「設計・計画における知識の活用」「相互作用を伴う解決策の実現」「技術的課題解決の評価に基づく将来的レリバンスの実感」「技術と生活や社会の関わりの理解に基づく将来的レリバンスの実感」「先端技術が築く未来構想を通じた現在のレリバンスの涵養」を設定している。

第4章では、提案した学習の枠組みの前半部にあたる「技術との関わりの形成」「個別の知識の獲得」「生きて働く知識の習得」「知識の活用に向けた関係性の把握」及び「設計・計画における知識の活用」に基づく授業実践と評価を行っている。その結果から、文脈に即した段階的で系統的な指導が重要であることなど、技術科における題材の指導と評価の計画を立案するための知見を得ている。

第5章では、提案した技術科の資質・能力の構造に基づく学習の枠組みに依拠した技術科授業の実践を想定し、学習目標や主な学習活動、評価規準、指導事項を対応づけた題材の指導と評価の計画を例示している。

第6章では、本論のまとめを行い、今後の課題として、例示した題材の指導と評価の計画の実証的な検証に基づいて資質・能力の構造や学習の枠組みの改善に努めるとともに、提案した学習の枠組みを技術科の他の学習内容に適用することを示している。

本論文は次の2点で高く評価できる。

1. 技術科の学習により育成を目指す資質・能力を構造的に表示したこと、及びその構造に基づく学習の枠組みを整理したことである。これまでに技術科の授業や学習による様々な力の習得が主張されてきたが、総合的な整理はされていなかった。本論文では、コンピテンシーという世界的な教育改革の考えを参照しつつ、資質・能力の特徴を踏まえた構造化と学習の枠組みを示した点において、技術科授業の実践に貢献できることが評価できる。
2. 技術科の資質・能力の構造を踏まえた学習の枠組みに準じて、授業を計画・実践する指針となる題材の指導と評価の計画を示したことである。学習目標や主な学習活動、評価規準などを踏まえた指導計画を具体的に示したことにより、資質・能力の構造を理論的な知見にとどめず、技術科の資質・能力を育成する授業計画の指針として示したことが評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。